

- ② インクルーシブ教育を推進
- ③ 「こども誰でも通園制度」がスタート
- ④-⑤ 特集 新たな形を活動に
つなぐ、つながる、自治会。
- ⑥-⑧ 街の話題/コラム/お知らせ

デジタル広報配信 アプリは「マチイロ」「カタログポケット」 ネットは「マイ広報紙」

地域に響く 夏の音



受け継がれる 盆踊り

夕暮れの空に、ふわりと浮かぶちようちん。柔らかな光が、依知神社を優しく包みます。屋台が立ち並び、にぎわいを見せる境内には、地域に伝わる「依知北ふれあい音頭」が鳴り響いています。太鼓のリズムに合わせて踊りを楽しむ「納涼盆踊り大会」は、50年以上にわたって受け継がれています。

盆踊りは、30代から50代までを中心とする上依知青年会が、自治会などと協力して実施。地元の小・中学生やJAあつぎ女性部が踊り手に加わり、夏の訪れを告げる恒例行事となっています。2年前から会長を務める小原光貴さん（52・上依知）は「若い世代から高齢者まで、誰でも気軽に踊って楽しめるのが良いところ。地域の伝統行事として守り続けたい」と笑顔を見せます。若者にも楽しんでもらおうと、ダンスを組み合わせた演目も取り入れています。

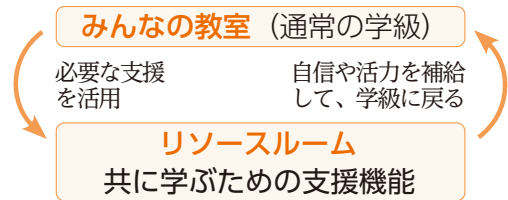
手を上げ、足を運び、踊りを楽しむ参加者たち。つながれた伝統に新たな楽しさを加え、地域に温かな明かりをともします。



全校に配置した支援員が子どもたちをサポート

市のインクルーシブ教育

《学びの仕組み》



《リソースルームとは》

通常の学級で過ごししながら、必要に応じて学習や生活の支援を受けられる教室。

■日本語指導プレクラス「あぷれ」

日本語が分からないまま編入・転入してきた小・中学生に対し、日本語の初期指導をする教室。

☎教育指導課 ☎225-2660

■フリールーム、こころの教室

不登校や教室に入りづらい児童・生徒が、自分のペースで生活・学習できる場所などを提供。

☎青少年教育相談センター ☎225-2520

一人一人に寄り添った支援を

支援員は通常の学級である「みんなの教室」で、全ての児童・生徒が共に過ごし学び合えるようサポートします。個別の支援が必要な子どもたちには「リソースルーム」という校内に設

教育委員会では2021年、「市インクルーシブ教育指標」を策定しました。個別の支援を必要とする児童・生徒の増加を受け、昨年度に指標を改訂。誰もが同じ学びの場で学習できるように、全ての市立小・中学校にインクルーシブ支援員を配置しました。

各学校を巡回するインクルーシブ教育推進指導員も新たに配置。学級やリソースルームの様子を見て把握した課題に対し、学級運営や授業内容の改善策を学校にアドバイスします。

支援員の岩永美洋さん（53・温水西）は、「こどもたちの個性に合わせた声かけを心掛けています。安心・安全で楽しく学校生活を送れるよう支えたい」と話します。

けた支援の場で、一人一人のニーズに寄り添った支援を実施。こどもたちが、確かな学力や集団で過ごすために必要な力を身に付けられるよう援助しています。

過ごしやすい環境に

昨年度からは、外国にルーツを持ち、日本語の指導を必要とするこどもたちへの支援も強化しています。学校生活に必要な日本語を教える教室を設置し、言葉の壁による不安を軽減できるように支援しています。さらに、不登校の児童・生徒には、自身のペースで生活・学習できる「フリールーム」などを設置。安心して過ごせる居場所を提供しています。

☎教育指導課 ☎225-2660

今後も誰もが自分らしく学び、成長できる環境づくりを進めていきます。

Zoom Up

こどもたちが安心できる教育環境に インクルーシブ教育を推進

全てのこどもたちが同じ場で共に学び、共に成長できる「インクルーシブ教育」に力を入れていきます。4月からは全市立小・中学校に、児童・生徒の学校生活を状況に応じてサポートする支援員を配置。巡回しながら学校に助言する指導員も導入しました。

高年齢者と障がい者の雇用を後押し

高年齢者や障がいのある方を継続して雇用する市内中小企業を支援します。

☎産業振興課 ☎225-2830

高年齢者継続雇用奨励補助金

対象 8月1日現在①市内で1年以上事業を継続②2027年3月31日時点で66～70歳の方を1年以上継続して常用雇用③市税を完納④従業員数300人以下の全てを満たす中小企業など

補助額 市内在住が3カ月以上継続＝1人5万円
市外在住＝1人1万円 ※1企業3人まで

障がい者雇用奨励交付金

対象 8月1日現在①市内で1年以上事業を継続②障がいがある方を1年以上継続して常用雇用③障害者雇用率2.7%を達成④市税を完納⑤従業員数300人以下の全てを満たす中小企業など

交付額 市内在住が3カ月以上継続＝1人10万円
市外在住＝1人5万円

いずれも☎市HPにある申請書と必要書類を郵送で8月31日（消印有効）までに〒243-8511産業振興課へ。市HPからも申し込み可。

※他にも従業員の賃上げにつながる設備投資をした企業に対する補助などの支援制度も設けています。



詳細はこちら

8月1～7日は食中毒予防週間

食中毒を予防しよう

食中毒は、菌やウイルスが付いた物を飲食すると発症します。衛生習慣を身に付け、下痢や嘔吐などの症状が出たら適切に対処しましょう。

☎健康医療課 ☎225-2174

食中毒予防の三原則



付けない

- ☑手・食品・調理器具をしっかりと洗う
- ☑調理中も小まめに手洗いを



増やさない

- ☑生鮮食品は冷蔵庫や冷凍庫で保管する
- ☑食材、料理を常温で放置しない



やっつける

- ☑食品の中心まで十分に火を通す
- ☑電子レンジでは均一に加熱する

食中毒予防 キャンペーン

予防の声かけや啓発物品などを配布します。

☎厚木地区食品衛生協会 ☎222-7643

日時 8月7日 14時～ 会場 市役所本庁舎正面玄関前



笑顔で過ごすはぐくみの丘保育園の園児たち

Q Zoom Up

「こども誰でも通園制度」がスタート 育ちの場をより身近に

就労状況などに関わらず保育所や幼稚園を利用できる「こども誰でも通園制度」が、4月から全国的に始まりました。市内では4施設で実施し、保育や教育の場での体験をこどもたちの成長につなげます。

家庭で得られない経験を

近年、核家族化や地域とのつながりの希薄化などにより、子育てで家庭を取り巻く環境は大きく変化しています。保育所や幼稚園などの保育・教育施設には、こどもの成長を支えるだけでなく、保護者の子育てをサポートする役割も求められています。こうした中、全てのこどもたちの成長につながる環境を整えるため、4月から「こども誰でも通園制度」がスタート。保護者の就労状況に関わらず、保育・教育施設を利用できるようになりました。

子育てしやすいまちへ

必要に応じて利用できる保育サービスも充実しています。病気やけがで集団保育に参加できない児童を一時的に預かる病児・病後児保育、バスによる送迎と通園前後の託児を行う幼稚園送迎ステーションなどを実施。多様なライフスタイルに合わせた支援体制を整えています。

今後、こどもの健やかな成長や保護者の負担軽減に取り組み、子育て・教育で選ばれるまちづくりを進めていきます。

問「保育所」保育課 ☎25-2231・
「認定こども園・幼稚園」こども育成課
☎25-2262

こども誰でも通園制度

対象 保育所、幼稚園、認定こども園などに在籍していない6カ月～2歳のこども（施設の利用は、1歳児～3歳の誕生日の2日前まで）

実施施設

施設名	所在地	受け入れ日時
キンダーガーデンこばと	旭町3-7-3	月～金曜 8時30分～16時30分
はぐくみの丘保育園	長谷1128-1	
厚木こばと保育園	中町3-11-20	
厚木田園幼稚園	三田1303	月・水曜 9時30分～12時30分

基本料金 1時間300円（別途給食代など）

■利用の流れ

①利用登録

市HPにある専用ポータルから申請。市の審査後、認定者にアカウントを発行。

《認定開始日》申請が①各月1～15日＝翌月1日
②各月16日～末日＝翌々月1日

②総合支援システムにログイン・面談予約

システムでこどもの情報を入力。利用施設の事前面談を予約。

③面談後にシステムで施設の利用を予約

④利用後、施設に利用料などを支払い



申請はこちら

同日開催 厚木で働きませんか

保育のしごと就職フェア・幼稚園就職相談会

市内の施設で働く保育士・幼稚園教諭と直接、話ができます。園の特色を紹介しながら、就職のアドバイスなどをします。



日時 9月5日 10～16時

会場 あつぎ市民交流プラザ

内容 保育士・幼稚園教諭の仕事内容や各園の特色の紹介、就職を後押しする就労支援制度の説明など

対象 市内の保育所や幼稚園に就職を希望する・興味がある方（託児あり・1歳～小学3年生10人）

費用 無料

☑不要。当日会場へ。託児を希望する場合は8月17日までに保育課へ。先着順。



詳細はこちら

☎保育所＝保育課 ☎225-2768、幼稚園＝こども育成課 ☎225-2262

ボランティアを募集

地域で子育てをサポート

子育てに関する相談や育児を支援するボランティアを募集します。

☎子育て支援センター ☎225-2922

■子育てアドバイザー

子育て支援センター・サロン室などでの子育て支援

●ほっとタイムサポーター

妊婦や乳児がいる家庭の家事や育児などをサポート

▲ファミリーサポートセンター提供会員

こどもの一時預かりや保育園などへの送迎サポート

無料 合同講習会 三つのボランティアの合同講習会を開催

日時 9月16日 10時～16時45分
17日 9～17時（全2回）

会場 あつぎ市民交流プラザほか

対象 市内在住の方30人。■は別途、保育所実習（半日）が必要。託児あり（1歳～小学3年生5人。8月26日までに要予約。先着順）。

☑8月3～25日に子育て支援センター（▲はファミリー・サポート・センター ☎225-2933）へ。先着順。☎



詳細はこちら



和やかな雰囲気で見解を交わすメンバーたち



結成時は「サポート隊」として活動



会話が弾む中川さん(左)と森下さん(右)

初夏のひんやりした風が心地よい夜。森の里一丁目自治会館から、楽しい話声が聞こえてきます。「次の祭りは何をしようか」「ハロウィーンでは、お化け屋敷がやりたいね」。軽食が並んだテーブルを囲み、これからの活動内容が話し合われています。

その輪の中心にいるのは、自治会長の中川洋太さん(66)。自治会内に、班長の仕事をサポートする有志のグループ「キラキラ☆さばいち」(キラさば)を立ち上げ、できる人ができる時に無理なく参加できる自治会

助け合いが つなぐ、地域の誇り

森の里一丁目自治会

「キラキラ☆さばいち」

活動を目指しています。

声掛けで広がるサポートの輪

中川さんは25歳の時、新たに住宅地として整備された森の里に移り住みました。当時は自治会が組織されていなかったため、コミュニティを築く活動に立ち上げから携わってきました。「ゼロからつくり上げる楽しさを伝えたい」。培った経験や地域のつながりの大切さを若い世代に引き継ぎながら、中川さんもキラさばメンバーの一員として汗を流しています。

特集 新たな形を活動に

つなぐ、つながる、自治会。

市内には213の自治会があり、誰もが安心して過ごせる地域づくりのために活動しています。しかし、高齢化や共働き世帯の増加により加入率は年々減少。担い手不足やつながりの希薄化が懸念される中、地域でつながりを持つための「新たな形」に取り組む2つの自治会の姿を追いました。

市市民協働推進課 ☎225-2141

つながるきっかけをデジタルで

坊中第二自治会



情報発信の内容を話し合う大沼さん(右)

「地域とつながるきっかけを後押ししたい」。自治会活動へ幅広い年代の参加を促すため、新たな活動の形を築いているのは坊中第二自治会の大沼涼さん(45)です。医療関係の仕事に就きながら自治会長を務め、会員の負担軽減や住民が参加しやすいイベントの実施などに力を入れています。

情報発信でつながりを

大沼さんが会長になったのは1年前。輪番制の組長が巡ってきたことがきっかけでした。以前から自治会に加入していたものの、具体的な活動内容までは知らなかったという大沼さん。他の候補者が高齢であることや職場が市内で動きやすかったことから「地域に貢献できれば」という思いで引き受けました。右も左も分らない中でのスタートでしたが、就任してすぐに、電子回覧板「いちのいち」の導入を決めました。これまで紙で回っていた市や地域のお知

らせをスマートフォンなどで確認できる情報ツールで、市が新たな取り組みとして始めたばかりでした。大沼さんは「回覧板を回さなければならぬ理由になり得る」と考え、従来の方法と並行して利用を進めています。いちのいちの回覧板の役割に加え、即時の情報発信ができるのも特長。大沼さんは台風の警戒情報や避難方法、サルの出没などの情報をタイムリーに発信しています。同自治会では20代から80代までの80人ほどが登録。「誰でも気軽に情報発信ができる機能もある。ささいな情報でも共有することで地域のつながりを深められる」と大沼さん。新たな取り組みに確かな手応えを感じています。

新しいものを付け加える

「自治会の魅力を多くの人に届けたい」。そう考える大沼さんは、自治会の公式LINEやホームページも立ち上げまし



老若男女問わず協力し合う

キラさばが発足したのは1年前。「企画から片付けまでを班長がするため、一人一人の負担が大きい」という声を聞いたことがきっかけでした。チラシの配布や声掛けでサポートメンバーを募り、現在は20代から70代までの34人が活動しています。昨年の地区運動会では、これまで班長の仕事だったテント設営などの力仕事や出場選手の募集などをキラさばが担当しました。中川さんは「班長の任期を終えた人が『次は自分がサポートする番だ』と、輪をつないでくれるのが理想」と話します。

地域のつながりの始まりに

中川さんは「失敗しても『楽しかった』という経験が大切。気楽な発想でいろいろなことに挑戦してほしい」と優しくメンバーの背中を押します。その思いを受け止めるのは、キラさばでリーダーを務める森下慎一朗さん(49)です。自治会の班長をしていた時、活動に負担を感じていたという森下さん。中学校でPTA会長として役員の負担軽減を進めた経験も生かし、自治会活動のサポートに力を注ぎます。

キラさばの活動は、自由に意



「いちのいち」で情報を発信

た。ホームページには、ごみの出し方や自治会の規約なども掲載。若者世代をはじめとした未加入者が入会しやすいよう、ワンクリックで申し込みできるフォームも作りしました。

デジタル化を進める一方で、顔と顔をじかに合わせられるイベントも大切にしています。7月に開く夏祭りでは、酷暑の中で活動をする体力的な負担を解消するため、新たな試みとしてキッチンカーを招きました。「祭りへの参加をきっかけに、自治会に加入してくれた人がいた。新しい取り組みが自治会への関心を高めることにつながった」と大沼さんは笑顔を見せます。「自治会の良さは人とつながれること。活動のデジタル化を進めながら、誰でも参加しやすい環境を整えたい」。地域のつながりを次世代に広げるため、新しい活動の形を模索し続けています。



顔を合わせられる場を大切にしている



「クリスマスまつり」での出店も企画

見を出しやすいグループチャットから始まることが多いといいます。結成当初は「サポート隊」だった名称をキラさばに変更したのも、若い人の意見を大切にした結果でした。キラさばの魅力を「地域の中でさまざまな世代とのつながりができること」と話す森下さん。「楽しんで活動が、結果として地域のためにいったらうれしい」と意欲を見せます。今までのやり方にただ従うのではなく、メンバーが協力して自分たちも楽しみなが、新しい取り組みに挑戦しています。

誇りを持てるまちへ

自治会ではキラさばの活動に加え、次世代の育成にも力を入れています。小学校と連携し、自治会館の防災設備の説明や地区内で収穫した梅を使った授業を実施。こどもたちが地域の一員であることを自覚し、まちに誇りを持つて成長できる環境づくりに取り組んでいます。「自治会活動の楽しさを広げていきたい」。誰にとっても楽しく活動できる環境を整えるため、キラさばの皆さんは今日も地域に助け合いの輪を広げています。

自治会への協力を形に

ボランティア活動証明書

自治会の事業にボランティアで協力した人に、市自治会連絡協議会から証明書を交付します。地域活動のきっかけに、まずは自治会活動に協力してみませんか。

《交付までの流れ》

①参加者が自治会長に証明書の発行を依頼

②自治会長が市自治連事務局に「発行申請書」を送付

③事務局が証明書を発行。
自治会長または参加者に直接郵送



詳細はこちら

自治会活動を身近なものに

市自治会連絡協議会
会長 山本 智明さん(73・妻田東)



市民の皆さんが自治会活動を知り、関心を持ってもらうための取り組みを進めています。SNSや人工知能(AI)がどれほど発展しても、人と人のつながりの大切さは変わりません。証明書を交付する新しい取り組みが、より多くの人に「自治会とは何か」「どんな活動をしているのか」を知ってもらう機会になったらうれしいです。活動への参加は、地域とつながりを持つきっかけになります。一緒に支え合い、誰もが安心して暮らせるまちづくりを進めていきましょう。

豊かな地域づくりのために

自治会に加入しませんか

自治会の加入は、地域の自治会長に申し込んでください。自治会が分からない場合は、市HPからも加入申請ができます。

主な自治会活動

- ・自主防災活動
自主防災隊の運営、防災訓練など
- ・防犯・交通安全活動
防犯パトロールや見守り活動など
- ・環境美化のための活動
ごみ集積所の管理や地域の美化清掃など
- ・文化・教養・レクリエーション活動
夏祭りや盆踊りの企画など



詳細はこちら



無料

自治会向け情報ツール

電子回覧板 いちのいち

誰もが参加しやすい自治会活動を推進するため、電子回覧板の運用を支援しています。利用を希望する自治会は、市HPにある申請書を市民協働推進課に提出してください。

いちのいちでできること

●回覧板の閲覧

市からのお知らせなどが、スマートフォンなどのアプリ上に掲載・確認できます。過去の回覧物も閲覧可能です。

●コミュニティ機能

趣味などのグループの作成が可能。会員同士がつながり、気軽に仲間集めができます。

説明会を実施します

導入を検討している自治会向けに、市職員または事業者が伺い、導入や登録の方法を説明します。
希望する自治会は市民協働推進課 ☎225-2141へ。

申請書やその他の機能などの
詳細はこちら



ランバイク全国大会で入賞 4歳児の高槻さんが市長に報告



愛車のハンドルを握る高槻さん

高槻さんは4月、愛知県大口町で開催された「ランバイク・レボリューション2025」天下無双「全国決戦」に出場。4歳以下を対象としたクラスの決勝大会で、5位に入賞しました。

高槻さんは「入賞できてうれしい。次は1位を取りたい」と笑顔。山口市長は「これからも上位を目指して頑張ってほしい」と健闘をたたえました。

高槻さんは、3月に兵庫県淡路市で開かれた「全日本ランバイク選手権シリーズ」の第3、4戦でも5位に入賞。年間12戦にわたって繰り広げられる大会で、6戦を終えて11位につけています。

2つの施設でネーミングライツ 荻野運動公園体育館と玉川野球場

荻野運動公園体育館と玉川野球場で、7月から3年間にわたるネーミングライツ（命名権）を導入しました。

ネーミングライツは、公共施設の通称に社名や商品名を付ける権利を企業などが対価を払って取得できる制度。契約を結んだのは、いずれも山際にある自動車運送業のシティアクセス相模と光運送です。荻野運動公園体育館を「シティアクセス相模スポーツホール」、玉川野球場を「玉川トライススポーツ球場」と命名しました。

シティアクセスの大塚一義代表取締役は「明るいまちづくりに役立ちたい」、光運送の大塚淳代表取締役は「市の発展に貢献したい」とそれぞれ話しました。

市では他にも、子ども科学館と及川球技場でネーミングライツを取り入れています。

年間の契約額は総額280万円



年間の契約額は総額280万円



女子ミニマム級初代王者に キックボクサーの寺田選手

キックボクシングイベント「ストライクネクス」で女子ミニマム級初代王者に輝いた寺田佑佳選手（25・旭町）が7月、市役所で喜びを報告しました。

イベントでは、初代王者を決めるワンデイトーナメントを開催。試合は3分3ラウンド制で、準決勝と決勝をジャッジ全員からの支持を得る判定で制して栄冠を手に入れました。ベルトを手にした山口市長を訪問した寺田さんは「プレッシャーや不安があったが、試合に勝ててうれしい。大きな大会を目指し、練習に励みたい」と、今後の抱負を語りました。

寺田選手は2024年8月にプロデビュー。複数のイベントで試合を重ね、9戦6勝3敗の成績を収めています。市内のフィットネスジムでインストラクターを務め、指導・育成にも取り組んでいます。



笑顔でベルトを掲げる寺田選手（中央）

5市町村の周遊情報が満載

県央やまなみ観光デジタルマップを作成

厚木・秦野・伊勢原市、愛川町、清川村の観光情報を掲載した「県央やまなみ観光デジタルマップ」が完成し、ウェブ上で公開されています。

5市町村と県が広域的な行政課題の解決に取り組む「県央やまなみ協議会」で作成。専用アプリケーションは不要で、スマートフォンなどから観光情報をいつでも手軽に収集できます。

スポットを選ぶと所在地や概要が確認でき、「見る」「食べる」「買う」などの目的で情報を絞り込むことが可能。GPSを使った経路案内機能で自分だけの観光ルートを作成することもできます。SNSとの連携機能も備えているので、各スポットが提供する旬な情報を確認できます。

公開時の登録スポット数は約200カ所。今後、1000カ所の登録を目指していきます。



近隣市町村の情報も収集できる

みんなの力でまちを元気に

あつぎの市民活動

ボランティアなどの社会貢献活動を支援するため、市民活動団体の登録制度を導入しています。連載では健康・スポーツ・文化芸術・福祉など、さまざまな分野の市民活動団体を紹介していきます。

7 市誘導赤十字奉仕団

目が不自由な方の外出支援、視覚障がい者同士が交流できるイベントなどを催しています。

1993年に設立。春と秋には、ハイキング「歩こう会」を開催しています。卓球などのスポーツ支援、小・中学生向けのボランティア体験など、さまざまな活動も実施しています。

誰もが安心して外出を楽しめる社会を目指し、今後も活動を続けていきます。



一人一人のペースに合わせて歩く

団体の詳細や問い合わせを希望する方は
市民協働推進課☎225-2101へ。

団体の一覧は
こちら



生徒代表にヘルメットを贈呈

ヘルメットをかぶって自転車に乗ることも見るたび、胸がじんわりと温かくなります。自分の命は自分で守るという強い意思や家族からの愛情が伝わってくるからです。

自転車は暮らしに欠かせない身近な移動手段ですが、事故のリスクも無視できません。ヘルメットは、命を守る大切な備えです。本市では、利用が多い中学・高校生を「自転車ヘルメットインフルエンサー」に任命。若者の視点から、着用を呼び掛

ヘルメット未着用時の致死率は、着用時の2.3倍といわれています。本市では購入費の一部を助成するなど、着用率の向上に力を入れています。皆さんもお気に入りのヘルメットをかぶり、身を守りながら安全な自転車ライフをお過ごしください。

のヘルメット着用によるPRはもちろん、イベントでの啓発やワークショップの開催などを通じ、着用の大切さを広めてくれることを期待しています。

は、私が市長になってからの2023年度。これまでに198人の皆さんを任命しました。本年度は5校で展開し、7月3日には荻野中学校で24人に任命書を手渡ししました。インフルエンサーとなった生徒たちには日頃のヘルメット着用によるPRはもちろ

タウンガイド

8月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

9月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

☎=申し込み ☎=問い合わせ ☎=電話番号
FAX=ファクス番号 ✉=Eメール HP=ホームページ
📍=講座予約システム
愛TV 8/1〜 =市広報番組あつぎ愛テレビ
市役所への郵便物は「〒243-8511〇〇課」で届きます。

あつぎのしゃしん。



「夏の訪れ」
#7月15日撮影
#恩曾川沿い
#ヒマワリ
#niceatsugi
市公式インスタ
グラムで公開中



無料 あつぎひがし座 人形浄瑠璃公演

人形浄瑠璃の体験や公演が楽しめます。

日時 8月23日 11時～、13時30分～

会場 本厚木ミロード「ミロにわ」

内容 あつぎひがし座による公演、体験会

☎不要。

人形浄瑠璃とは

語りと音楽に合わせて人形を操り、歴史劇などの物語を表現する日本の伝統的な芸能です。



詳細はこちら

☎文化魅力創造課 ☎225-2509

〒住所、氏名、年齢、電話番号を書き、8月28日までに市スポーツ協会 ☎247-7212・FAX 248-7151・✉ info@atsugi-sports.comへ。参加者には記念タオルを進呈。☎スポーツ魅力創造課 ☎225-2531。



市内にジモティースポットがオープン

地域情報サイトと結んだりユースに関する協定に基づき、不要品の持ち込みやリユース品の購入ができる「ジモティースポット厚木店」(温水115)が7月31日にオープンします。☎資源循環推進課 ☎225-2793。

児童扶養手当現況届・特別児童扶養手当所得状況届の提出

前年の所得やこどもの養育状況を確認するため、受給者は必ず届

け出てください。対象者には郵送で通知します。

《期間》児童扶養手当＝8月1日～31日、特別児童扶養手当＝8月12日～9月11日。☎子育て給付課 ☎225-2241。

みんなの声で ちやま

《意見交換会》

市未来・図書館条例の制定

8月18日、19～20時。市役所本庁舎。手話通訳・要約筆記あり。☎不要。☎中央図書館 ☎223-0033。

《パブリックコメント》

市未来へつなぐ健康づくり条例の制定

《閲覧期間》8月3日～9月2日《閲覧場所》健康医療課、市政情報コーナー、公民館、駅連絡所、中央図書館、あつぎ市民交流プラザ、市HP。☎閲覧場所にある用紙に掲載。☎健康医療課 ☎225-2174。

厚木市 市民参加

検索

開催時期が秋に

第80回 あつぎ鮎まつり

あつぎ鮎まつりは、本年度から秋に移行します。☎商業観光課 ☎225-2820

開催日 10月10・11日

詳細は観光協会HPや広報あつぎ9月1日号でお知らせします。「あつぎ鮎まつり思い出絵画コンクール」は秋に実施予定です。



HPはこちら

北小学校校舎見学会「ホームカミングデー」

8月21日、9時30分～。8月22・23日、①9時30分～②13時～(各回120分)。北小学校(山際658)。建て替えを前に校舎を開放。☎不要。詳細は学校HPに掲載。☎北小学校 ☎245-1137。



保護者セミナー「保護者同士による座談会・不登校相談会」

9月2日、10時15分～11時45分。あつぎ市民交流プラザ。講話と情報交換。こどもの学校生活に不安がある保護者など20人。無料。☎8月1日～9月1日(託児希望は8月18日まで)に青少年教育相談センター ☎225-2520へ。先着順。

あつぎマラソン ボランティアを募集

給水補助や会場整理などをするボランティアを募集します。

《日時》10月25日、8～12時《場所》荻野運動公園と周辺道路。☎電話またはファクス、Eメールに

市民協働提案事業

あつぎ ストリートフェス

ミュージシャンによるストリートライブを楽しみませんか。

☎文化魅力創造課 ☎225-2508

日時 8月15日 17時30分～19時30分

会場 中町花の公園

☎不要。



ホット

インターネットモニターからの意見を紹介



インターネットモニター募集中

厚木市 インターネットモニター 検索

☎広報シティプロモーション課 ☎225-2043

7月1日号「広報あつぎ」を読んで

◆厚木にガラス工房があるとは知らなかった／60代女性 ◆家に省エネ設備を取り付ける際に国や市の補助金制度があると助かる／40代男性 ◆LINEで避難所にチェックインできるのは便利で、負担も減ると思う／20代女性 ◆市内には、こどもから大人までが気軽にできるスポーツがあって参加しやすい／70代女性 ◆市制70周年記念映画では、どんな厚木が描かれているのか公開が楽しみ／50代女性

編集後記

家族以外にも、自分のことを知ってくれている人が地域にいと心強く感じます。何げなく交わすあいさつや会話を通じて、地域とのつながりを実感できるからです。取材では、デジタルツールの活用や世代を超えた活動など、新しい方法でつながりを育むため、工夫しながら活動している姿が印象に残りました。今回の特集が、自分の暮らす地域を改めて考えるきっかけになればうれしいです／渡邊

ATSUGI
JAZZ
NIGHT

2026

8月20・21日

16時～20時30分 厚木公園

JAZZ
ATSUGI
NIGHT

あつぎ
ジャズナイト

総勢10組のアーティストの生演奏が
楽しめます。

お酒やグルメを味わいながらジャズ
の世界に浸りませんか。

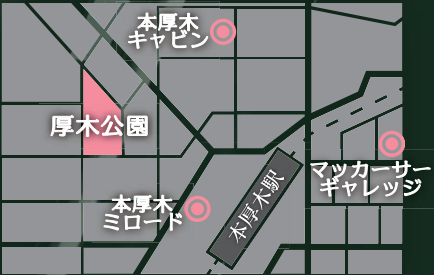
☎商業観光課 ☎225-2840



詳細は
こちら

お店でもジャズを
イベント中は、協力店舗でも
演奏が楽しめます。

◎＝協力店舗



自然歳時記

●トゲグモ●
コガネグモ科

雌で体長は6～8ミリ、雄で3～4ミリほどと、
とても小さい。体が硬く、腹部に黒い突起
物がある不思議な形をしている。日本では
生息数が少なく、珍しい／七沢、雑木林の
縁で見つけた。

写真・文／吉田文雄



溪流から吹き上げる風が、天然
の扇風機となってとても心地良
い。そよぐように揺れる緑の葉の
上に、鳥の白いふんが落ちている
のに気が付いた。ふんが動いたよ
うな気がしてチラッと見ると、白
黒模様をした生き物だった。

以前にも見たことがあると思っ

て調べると、トゲグモだった。次
の日には姿がなく、がっかりして
ふと顔を上げると、円網を張るト
ゲグモがいた。1本1本の糸を丁寧
に張り、規則正しく巣を作り上げ
る姿の巧みさに感心した。

トゲグモが光を背景に、美しく
輝いていた。

厚木市の人口
(7月1日現在)

世帯数

10万5950世帯 (前月比90世帯増)

人

22万2380人 (前月比52人減)

男11万4503人・女10万7877人

「広報あつぎ」では、自主財源確保のため広告掲載事業を実施しています。広告掲載の申し込みは(株)横浜メディアアド ☎045-450-1810へ。